短 報

ウンゼンカンアオイの黄緑花品種（米倉浩司，大橋広好）
Koji YONEKURA and Hiroyoshi OHASHI : A Yellow-green Flowered Form of *Asarum unzen* (F. Maek.) Kitam. & Murata (Aristolochiaceae)

ウンゼンカンアオイ*Asarum unzen* (F. Maek.) Kitam. & Murataは九州西北部を中心に分布し，原産地では常緑広葉樹林やスギ植林などの暗い林床に生ずる．同じ地域には同属のツクシアオイ*A. kiusianum* F. Maek.も生育しているが，両種は地理的にすみ分けている（倉成，上野 1979).

ツクシアオイには萼筒や萼裂片の色に幅広い変異の見られることがすでに報告されているが（前川 1933)，ウンゼンカンアオイでは萼裂片は通常暗紫褐色で変異は少ない．ところが，1996年の春に長崎県佐世保市田代町においてウンゼンカンアオイの開花中の個体群に1株だけ萼筒と萼裂片が淡黄緑色を呈する個体を発見した．おそらく単なる突然変異と推定されるが，明らかな1型であり，新品種と認めてここで発表したい．自生地は標高230m付近に位置する北に緩やかに傾斜したスギ植林の暗い林床で，ウンゼンカンアオイの他にはマムシグサ・コショウノキ・ヒメナベワリ等が生育していた．

カンアオイ類は*Asarum*属あるいは*Heterotropa*属とされるが，ここでは広義の属を採用し，*Asarum*属としたい．

Asarum unzen (F. Maek.) Kitam. & Murata [Col. Ill. Herb. Pl. Jap. (Choripet.) 324, fig. 145-5 (1961), nom. nud.] in Acta Phytotax. Geobot. **20**: 207 (1962).

Heterotropa unzen F. Maek. in J. Jap. Bot. **27**: 326 (1952); Satake in Satake et al., Wild Fl. Jap. **2**: 107, pl. 103-5 (1982), ut (F. Maek.) F. Maek.

f. **luteoviride** Yonekura & H. Ohashi, f. nov.

Calyx luteo-viridis, cetera ut in typo.

Nom. Jap.: Moegi-unzen-kan'aoi (nov.) モエギウンゼンカンアオイ

Type: Japan: Nagasaki Pref., Sasebo-shi, Tashiro-cho, alt. ca. 230 m. under plantation of *Cryptomeria japonica*. (K. Yonekura 96179, 6 May 1996) — Holotype in TUS (no. 170773).

引用文献

倉成靖任，上野二己 1979．西九州におけるカンアオイ類の分類．佐賀の植物 **15**: 14-20.

前川文夫 1933．日本産かんあふひ類解説（其四)．植物研究雜誌 **9** :241-246.

(東北大学大学院理学研究科生物学教室)

自生のヒメフジ（山中二男，大橋広好）
Tsugiwo YAMANAKA [a] and Hiroyoshi OHASHI [b] : *Millettia japonica* form. *microphylla* Growing Wild in Japan

高知県安芸市安芸ノ川に，マメ科の変わった植物がある．場所は海抜およそ80 m，泥岩のがけ地で，周辺のアラカシとツブラジイを主とする二次林にはマルバウツギ，ズイナ，キハギ，リョウブ，モチツツジそのほかの低木が生じ，すぐ近くにはコシダ，ウラジロ，ヒトツバ，ヒメカンスゲなどがある．

生育地で見るかぎり，やや叢生して斜上する低木で，茎は50－80 cm，先が多少つる状になるものがある．葉は葉柄を含めて5－9 cm，奇数羽状複葉，側小葉は3－5対で多くは4対，皮針形で先端は鋭形または鋭先形，葉の基部のもので長さ8－10 mm，幅3－4 mm，上部では長さ17－25 mm，幅4－6 mm，頂小葉は同形で長さ20－30 mmときにそれ以上，幅は5－8mmになる（Fig. 1)．葉柄とともに小葉は両面に毛があり，とくに脈上に多い．これまでに花の咲いたようすはない．

こうした形からは，既知の植物では，牧野（1914）が栽培品で記載した*Millettia japonica*